



## 第 11 回 東京エリア Debian 勉強会 事前資料

Debian 勉強会会場係 上川純一\*

2005 年 12 月 10 日

# 目次

1	Introduction To Debian 勉強会	2
1.1	講師紹介 . . . . .	2
1.2	事前課題紹介 . . . . .	2
2	Debian Weekly News trivia quiz	4
2.1	2005 年 46 号 . . . . .	4
2.2	2005 年 47 号 . . . . .	5
2.3	2005 年 48 号 . . . . .	6
2.4	2005 年 49 号 . . . . .	6
3	最近の Debian 関連のミーティング報告	8
3.1	東京エリア Debian 勉強会 10 回目報告 . . . . .	8
4	一年間 Debian 勉強会をやってみて	10
4.1	月例の Debian 勉強会のワークフロー . . . . .	10
4.2	JDMC のような大きなイベントのワークフロー . . . . .	11
4.3	やった内容 . . . . .	13
4.4	おきたトラブル . . . . .	13
4.5	できた内容 . . . . .	14
4.6	今後やりたいこと . . . . .	15
5	Debian 勉強会の事前資料の作成はどうやってやったか	16
5.1	作成ツール . . . . .	16
5.2	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X ソース . . . . .	16
6	次回	18

# 1 Introduction To Debian 勉強会

上川純一



今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も、すでにどっぷりとつかっているといふ方も、月に一回 Debian について語りませんか？

目的として下記の二つを考えています。

- メールではよみとれない、もしくはよみとってられないような情報を情報共有する場をつくる
- まとまっていない Debian を利用する際の情報をまとめて、ある程度の塊として出してみる

また、東京には Linux の勉強会はたくさんありますので、Debian に限定した勉強会にします。Linux の基本的な利用方法などが知りたい方は、他でがんばってください。Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりを作りながらスーパーハッカーになれるような姿を妄想しています。

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し、情報の共有をしたい、というのが目的です。今回は違うこと言ってるかもしれませんが、御容赦を。

## 1.1 講師紹介

- 上川純一 宴会の幹事です。

## 1.2 事前課題紹介

今回の事前課題は「Debian の 2005 年を振り返って」というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください。というものでした。その課題に対して下記の内容を提出いただきました。

### 1.2.1 さわださん

Debian の 2005 年を振り返ると言われたら、絶対に被るだろうけど sarge リリースか。woody から 3 年、ほとんどのパッケージはアップグレードされている、となるとサーバが動かなくなるんじゃないかってことで sarge にアップグレードできない人って多いんじゃないのだろうか？実際、1.x を探している人がいるぐらいだしw。解決策としては定期的なリリースとアップグレード時の動作保証、なのだけど、いい意味でも悪い意味でも「遊びでやっている」Debian Developer の方々にリリーススケジュールや動作保証を強制するのは難しい気がする。そこらへんは ubuntu に頑張ってもらうのがいいのだろうか。

そういえば Debian GNU/kFreeBSD とか Debian GNU/Solaris とかを頑張っている人もいたな。UNIX 萌えて Debian 萌えな私としてはいろんな UNIX でさらに Debian だと嬉しい。常用するかは別として。

日記を振り返ってみると白箱と書いてある。GNU/Linux でも i386 以外の選択肢と言ったところか。ボーナスが出たので購入を検討するかな。

### 1.2.2 吉田さん

「Sarge がリリースされた」が普通、最大のトピックでしょう。個人的にはそれにより、woody から sarge に dist-upgrade してみました。いくつか問題も有ったけど最終的には移行完了できました。移行できたことによるメリット。セキュリティアップデートに追従できる様になり (特に samba)。大抵のパッケージはそこそこ新しい物が apt-get で

簡単に入るようになった。sarge に無いパッケージも sid からのバックポートが簡単になった。また、「Sarge 対応の Debian 関係の書籍が出版」された。個人的には woody 対応本は内容が古そうなので、ほぼ読まずに web 等を参考資料にしていた。書籍になって基本的なところが明確になった。また、パッケージの作り方が明確になり、作りやすくなった。

本題今年 (2005 年) の Debian 関連のトピックとしては「東京エリア Debian 勉強会が開催された」。は外せないでしょう。

で、初参加したところ... なぜか 2 週間後、「自分が、勉強会資料の総集編をコミケで売っていた。」これが個人的に最大のトピック。

### 1.2.3 中島 清貴さん

今年かなり有名になったのではないだろうか。なにをもって有名というのか分からないけれどドラゴン桜ぐらいの知名度があると思う。僕の友人も使いたしたので、いろいろ試して教えてもらいたいものだ。ご近所さんで使いたしたのが今年はじめてなので知っている人が増えて助かった。勉強会のほうは最初の頃かなり参加人数が多かったのに驚いた。よく定員に入れたものだ。こんなに人間が山手線の外側に集まるものなのか。あと手が汚れないようにパッケージに入ってるスナック菓子うまい棒をまったく食べなくなってしまった。Debian Weekly News のクイズを全問正解するために食べない。食べないと食べたくなる。そこで食うためにクイズで正解するという戦法だ。しかしまだ全問正解していないから意味がない。

### 1.2.4 岩松さん

- Debian パッケージメンテナーになった: 今年は私が Debian に深く係わりを持った年だった。今まで使っているだけだったのだが、この勉強会で知り合った人達の助けを得て、debian パッケージメンテナーになり、開発者側の立場になったということが今年の私自身の大きな出来事である。現在 NM プロセス中で、また先は長いですが Debian に貢献できるデベロッパーになれるよう努力をしていきたい。
- sarge リリース: woody から 3 年。sarge がリリースした。私の力不足で自分のメンテナンスしているパッケージを取り込めなかったのが悔やまれます。時期リリースの etch ではこのようなことがないようパッケージメンテナンスをしていきたい。

### 1.2.5 上川

2005 年、debian sarge が正式にリリースされました。Debian Conference はフィンランドにて開催され、いままでに無い規模のお金が動きながらも、無事に終了しました。今後継続できるのか、それが一番問題だと思います。Debian の規模は大きく、期待も大きくなっています。その一方で Debian をささえるインフラは旧来のままの部分が多いです。この微妙なバランスがどうなるのか、今後目がはなせないです。日本での Debian 開発者の会の活動についても、低調な感じが否めません。今年は特に重要なサーバがダウンしたりしたので、影響が出ました。しかし、今後、どんどんと日本においても Debian の存在感が増していくと思われまますので、なんとかしたいですな。

## 2 Debian Weekly News trivia quiz

上川純一



ところで、Debian Weekly News (DWN) は読んでいますか？ Debian 界限でおきていることについて書いている Debian Weekly News. 毎回読んでいるといろいろと分かって来ますが、一人で読んでいても、解説が少ないので、意味がわからないところもあるかも知れません。みんなで DWN を読んでみましょう。

漫然と読むだけではおもしろくないので、DWN の記事から出題した以下の質問にこたえてみてください。後で内容は解説します。

### 2.1 2005 年 46 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2005/46/> にある 11 月 15 日版です。

問題 1. Debian armeb の進捗はどうか

- A やっと gcc/glibc/binutils が移植された
- B ほとんどのパッケージが移植されている
- C まだ起動もしていない

問題 2. DevJam で Java の現状について議論があった。その際の認識はどうだったか

- A まだフリーな java で全てを実装できていないので、動かないものがある
- B フリーな Java は充分利用できる状況で、それだけで全てが充足できる。
- C フリーな Java は全く利用出来ない状態

問題 3. Clam Antivirus について Marc Haber が発表したのは

- A 15 分毎に更新を確認して、あたらしくなっていたら自動で volatile.debian.net にアップロードする
- B 更新は手動で確認して、メンテナが暇なときにアップデートする。新しいデータを常に欲しい人は、頑張って自分でアップデートすること。
- C データ量が多いため、更新はしないので、各自がんばって更新してください。

問題 4. debian-installer etch beta が出ました。Joey Hess がこんなに時間がかかったことについて言明したのは

- A めんどくさかったので放置していたので、こんなに時間がかかりました
- B 10 位の項目についてそれぞれで 3 日づつ遅延要因になるため、一月くらいは遅れるはめになる
- C ちゃんとハックできる人が参加していないので、コードの品質が下がったため、こんなに時間がかかりました。

問題 5. SugarCRM は MPL1.1 をベースとしたライセンスで配布されている。そのライセンスはフリーだろうか

- A MPL は Mozilla のライセンスなので、その時点でフリーだ
- B ウェブページにフリーソフトだ、と書いてあるので、フリーだ。
- C 変更した場合に名前を利用できないことになっているので、名前を変更すればよいだろう

問題 6. Debconf の発表資料を DFSG フリーにしようという提案について Anthony Towns がした反論は

- A ML でのスレッドなど DFSG フリーでないコンテンツは多数ある。全てがそうである必要はない。
- B ライセンスなんてつけるだけ無駄なので、つけないほうがよいでしょう。
- C あらゆるものは DFSG フリーどころか、全部 GPL であるべきなので、GPL 以外のライセンスは考えるのもおこがましい。

問題 7. Gabor Gombas さんが、複数の-dev パッケージが conflict することについて苦情を出した。その対応は

- A -dev パッケージがインストールできないのは問題なので、上流のやっている内容を改変して共存できるようにするのがよい
- B openssl と gnutls をまぜるほうがライセンス的に適切なので、両方がリンクされたパッケージを作る
- C include ファイルのパスなどは開発用の API の一部であり、同じパスを利用する複数の-dev パッケージは conflict して当然だ。

問題 8. ping が Linux 専用である点についての議論で、FreeBSD や Hurd でも動作させるためにパッチを適用することに対してはどういう意見が出たか

- A 今後の Debian の一貫性を維持するためにはすべきだ
- B ping なんて BSD 上でははやらないのでなくしてもよい
- C あきらかに fork しているため、メンテナンスが大変になる

## 2.2 2005 年 47 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2005/47/> にある 11 月 22 日版です。

問題 9. Matthias Klose が g++ について発表したのとは何か

- A g++ は今後 D 言語用のコンパイラによって置き換えられるので、C++ なんて古い言語をつかうのはもうやめる
- B g++ のメモリアロケータが変わるため、また g++ で生成されたライブラリの ABI が変更になる
- C g++ は最適化するために今後はマクロの展開処理を省略する。そのために文法が若干変更になる

問題 10. Anthony Towns が -private メーリングリストについて提案したのは

- A 3 年たったら一般公開する
- B 存在自体を抹消する
- C 即時公開メーリングリストにする

問題 11. Branden Robinson が DPL について何ができるかという説明文を発表した。その条文はいくつあるか

- A 3
- B 10
- C 120

問題 12. Enrico Zini が発表した新しい検索エンジンでは何をもってパッケージを検索できるか

- A 2ch の過去ログ情報を用いて検索
- B debtags 情報を使って検索
- C popcon の利用頻度情報を使って検索

問題 13. Ian Jackson が提案したのは何か

- A パッケージの自動テストのためのスクリプトインタフェース
- B パッケージを受け入れるときのための基準
- C パッケージの品質をあげるための魔法

問題 14. Christopher Berg が発表した、メンテナ向けのパッケージ一覧ページの新機能でないのは

- A パッケージがどれくらい人気あるのかということを確認できる
- B パッケージがどれくらいよい品質なのかが確認できる
- C 一覧で確認できるパッケージを任意に追加できる

問題 15. PHP ライセンスについて Steve Langasek の考えは

- A PHP を使うこと自体がまず問題だ
- B PHP 自体については問題ないが、PHP 以外にそのライセンスを適用するには問題がある
- C PHP ライセンスは本当に DFSG フリーなのかどうかはグレーだ

## 2.3 2005 年 48 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2005/48/> にある 11 月 29 日版です。

問題 16. Freetype に関して何が起きる、と Steve Langasek は宣言したか

- A 誰も使っていないので、パッケージを削除する
- B ABI に変更があったので、5 のパッケージが移行する必要がある
- C ABI に変更があったので、600 のパッケージが移行する必要がある。

問題 17. sbuild の最新版はバージョンが 1.0-1 のパッケージに対しての binary NMU 番号をどうつけてくれるようになったか

- A 1.0-1+b1
- B 1.0-1.1
- C 1.0-1.0.1

問題 18. Frank Küster は、パッケージの conffile への変更の反映を管理者が拒否し、その結果 postinst が失敗になることについて、問題ないだろう、と質問した。それに対しての Petter Reinholdtsen の対応は

- A そういうエラーは管理者が拒否するのが問題なので、管理者を日勤教育するべきだ
- B そのような問題は存在しない
- C そういう場合には、設定ファイルを動作に必須なものとローカルで管理者がオーバーライドする部分とに分離することを提案する

問題 19. vservers は何をやるものか

- A chroot などの技術を活用し、複数の仮想サーバコンテキストを作成してくれて、Linux 上で複数のサーバを仮想的に提供できる
- B サインは
- C サーバの統合管理のためのツール

## 2.4 2005 年 49 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2005/49/> にある 12 月 6 日版です。

問題 20. Manoj Srivastava が GR の議論期間を宣言した。今回の議論は何についてか

- A -private メーリングリストの一般公開について
- B -devel メーリングリストの秘密化について
- C -mentors メーリングリストの会員制化について

問題 21. テンポラリディレクトリについての議論があり、ユーザ毎にテンポラリディレクトリを持つことがよいのではないかという結論が出た。ユーザ毎にテンポラリディレクトリを持つ際にその機能を実装してくれるのは

- A /etc/profile でテンポラリディレクトリの作成
- B init スクリプトでのディレクトリの作成
- C pam-tmpdir という PAM モジュール

問題 22. C++ のメモリアロケータの移行でまだ移行できていない、ということでさらしあげになった日本の開発者は

- A mhatta さんと土屋さん
- B gniibe さんと鵜飼さん
- C えとーさんと岩松さん

問題 23. パッケージがどのバージョン (unstable, stable, testing) 用に作成されたのかを確認する簡単な方法がないか、という質問に対しての Marc Brockschmidt の回答は何だったか

- A パッケージのバージョン番号を見ればわかる
- B パッケージの changelog を見ると、どのバージョン用にビルドしたのか、ということは確認できる。
- C Debian のパッケージはほとんど全てが一旦は unstable にあったことがあり、testing と stable に入るため、パッケージがどれ用につくられるというものではない。



## 3 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川純一



### 3.1 東京エリア Debian 勉強会 10 回目報告

前回開催した第 10 回目の勉強会の報告をします。

今回は dpkg-statoverride と DWN の翻訳についての話を展開しました。今回の参加人数は 7 人でした。議論された点を以下に紹介します。

dpkg-statoverride で設定しても、chmod, chown を postinst で呼んでいる場合は dkpg-statoverride で指定した値はオーバライドされてしまう。次に dpkg-statoverride がうごいた場合に直るので、インストールしてからしばらくすると直る、というような謎のバグの温床になってしまう。

無いユーザ名を指定しての statoverride は「dpkg-statoverride: non-existing user XXX」というエラーで終了しますね。

dpkg-statoverride コマンドを指定しても、どのパッケージの postinst で指定されたか、という話がわからない。

現在あまり活用されていないので問題は露見していないが、alternatives と同じで、dpkg で管理されているわけではないので、dpkg -c や -L で見えない。alternatives や diversion と併用された場合の挙動が不明。おそらくうまくいかないだろうと思われる。この点は確認が必要。

ロギングや、ユーザの作成、削除については postinst で毎回複雑な処理を追加する必要があり、難しい問題だ。トレーサビリティが無い。ただ、システム管理者側としては、知っていて損はない機構。

/usr/lib/dpkg/statoverride.d/package 名というディレクトリがあります、というような仕様のほうがよくないですか？

/var/lib/dpkg/info/diversion のファイル仕様もなかなか微妙だが、/var/lib/dpkg/info/statoverride のファイル仕様は ACL や SELINUX 対応に拡張できるような形式ではない。セキュア OS 系のタグとか ACL とかも管理するために使えるような仕組みではあるのだが。

DWN 翻訳 : DWN 翻訳については、内容間違ってもユーザのシステムが壊れる、というものではないので、その点は気楽なので、よい。翻訳しにくいときに、参考リンク先の内容をみても全く同じ表現があるときには解決しなくて困る。困った時には査読の人にお問い合わせするとコメントがくるのでなんとかなることが多い。最近レビューアとして新しい人が来たのでどうなるか楽しみ。

WML をテキストにして整形するのに emacs の auto-fill で毎回処理していたり、[1] などの URL へのリンクの表現が次の行にうつらないように禁則処理をする、とかの処理を実は手動で現在している。

対訳表を作成したい。必要。難しい点としては、よくわからない用語がたくさんある。また、Debian 用語だけをとても dpkg, apt, aptitude, dselect など用語が統一されていない。curses を使っているツールだと、文字数の制限があって、「インストール」のかわりに「導入」ということばを使っていたりする。synaptic や rpm などとも用語をそれなりに統一しては行きたいのだが、訳をしている人達と、話をする機会がないのでなかなかすまない。unstable, stable, testing などを「distribution」というのはちょっと違う気がする。distribution を配布版と訳するともっと違う気がする。

DWN を翻訳する作業は定期的に行われるのでそれでメンテナンスするとよいものができそうではないか？

DWN に関して、RSS と、HTML のアンカーが欲しいが、追加するのは WML のアーキテクチャとして結構難しいかもしれない。本当にこれでやっているのか、XML で処理していたりしないのだろうか？

## 4 一年間 Debian 勉強会をやってみて

上川



この記事の目的は、終ってからだと忘れてしまいそうだし、最中だといそがしくていっぱいなのでどこにも記録されずに忘れ去られてしまいそうな事項についてメモをしています。

希望としては、ここに書いてある内容を見て、今後のミーティングの運営の手伝いを人に頼めるようになればよいなと思っています。

### 4.1 月例の Debian 勉強会のワークフロー

2005 年、Debian 勉強会を毎回実施する際に利用したワークフローを紹介します。今後の勉強会などの参考にできるかと思い、記録します。

参加者規模、10 名から 20 名程度でした。予算規模は、宴会を含むと一回 5 万円から 10 万円程度です。宴会を含まないのであれば、多くて 1 万円くらいでした。(表 1)

表 1 予算概算

項目	予算
部屋代	1500
コピー代	300 × 人数
宴会代	5000 × 人数

#### 4.1.1 1 年前

開催者側のスケジュールの確保。上川は一年前にだいたいその年のスケジュールを決めています。

#### 4.1.2 2 ヶ月前

会場の予約確保、開催を決断。

#### 4.1.3 1 ヶ月前

この時期にすくなくともテーマの設定をします。講師の確保をしておきます。資料の作成開始をしておかないと間に合わないでしょう。目処がつきそうだったら、開催のスケジュールを対外的に公表します。参加者にスケジュールの調整をお願いします。

#### 4.1.4 1 週間前

宴会の会場選定などを実施します。大体、資料作成のデッドラインです。リマインダーの送付をします。

#### 4.1.5 2 日前

事前課題の文書を事前資料に転記したり、最終的な文書の校正。この時点で資料の印刷用の最終版が作成。

宴会の人数確定。宴会予約。

ただ、二日前に選定するとなると場所が限られる場合が多いので、本当はもっと早い時期がよいです。一般には、確定が早ければ早いほど予約は安くすみます。二日前になっても参加できるかどうかわからないという人がいますが、

そういう人の対応は難しいです。店の柔軟な対応に期待するか、コストをかけるしかないです。しかし、12月10日の宴会も前日で予約できたのであれば、実は当日に急に開催決定するとかいうのでさえなければ何とかなる物なのかもしれないです。

#### 4.1.6 1日前

資料の印刷をします。Kinko's にすべてを依頼する場合は場合にもよりますが、半日くらいは見込む必要があります。自分で全部するとしても量によりますが、一時間は見込む必要があります。

Kinko's にすべてを依頼する場合、部数が少ないとかなり割高になります。<sup>\*1</sup>

#### 4.1.7 当日

資料をもっていきます。司会をします。適当にもりあがります。

宴会も実施します。2005年は、講師は無料で宴会、ということで運営しました。ただ、ときどきそれでは予算が苦しい場合も多々ありました。なぜか宴会に来ているのに現金をもっていない人とかの扱いには苦慮します。

予算は、ほぼ確実になんらかの理由でのキャンセルが発生するため、余裕を20%くらい確保できていないと赤字になります。<sup>\*2</sup>

## 4.2 JDMC のような大きなイベントのワークフロー

Japan Debian Miniconf はまだまだこれから育って行くようなイベントです。今回蓄積できたノウハウだけで今後もうまく開催できるとは思っていません。ただ、今回イベントを開催する上で重要でたりなかった点を列記していきます。

- 連絡先を明確にする。
- 緊急時に判断をできる人を明確にする。
- 連絡網を整備する。
- ディスカッションができて、そこで決定した事項が合意したとみなせる環境をきめてしまう。たとえば IRC。

一人ではかぶりきれない責任もあるため、大きなイベントでは、本気で責任をもって開催したい、と思っている人が複数いる必要があります。

会議の内容をログに残して全員に周知させる係の人が必要です。理想としては、実働部隊と分けられればわけたほうがよいです。JDMC では、ほとんど矢吹さんだけに情報が集中していたはずで、メーリングリスト上ではながれていない情報が多数ありました。もしかすると検討する余裕がなかった項目も多数あったかもしれません。

また、メーリングリストで流れる情報は時系列なので、現在のステータスを一覽で把握できません。タスクトラッキングが重要になります。

また、全員がどういう方法で情報交換をするのかという点について同意が必要です。メールで主要な情報交換はなされたのだが、一部の主要メンバーの人達がメールをほぼ全く読んでいなかったという問題がありました。

#### 4.2.1 2年前

参加者が稼働できるように日程を確保します。スポンサーにあたりをつけるはじめる。マネージメント層に交渉します。それとなく開催できそうな雰囲気がただよっていることを確認します。

---

<sup>\*1</sup> A3 の紙に A4 を面付けしてもらい、なかとじホッチキス製本にするとホッチキスだけで 150 円/冊になります。コピーが一面 14 円程度になります。結果として、一冊 450 円程度になる。会費を 500 円しか徴収しないことを考えると、会場費用を考えると確実に赤字になってしまうので注意。

<sup>\*2</sup> 回避策としては、来ない人から徴収するとかいう案も可能性としてはありますが、来ない人から徴収することは暗黙に開催者が次回その来ない人から徴収する分について肩代りする、ということの意味するため、オーバーヘッドが発生することを忘れてはならない。

#### 4.2.2 1年前

1年前か、半年前くらいの時期にスポンサーの予算が大体確定するはずですが。講師に関しての予定、参加者の人数、プログラムの大体のイメージが決まっている必要があります。

初の企画でないのなら、前年度のイベントに参加して運営側で何がおきるかを明確にして、会場のサイジングなどをする必要があります。

スポンサーに関しては、通常スポンサーから資金が提供されるのはイベントが終了した後です。そのため、事前に当面必要な運転資金をどう確保するのかというのをも検討しておく必要があります。

また、赤字になることが見込まれるのであれば、計画を中止するという選択も必要です。

#### 4.2.3 6月前

会場を確保します。宴会場を確保します。

予約システムを整備し、広報します。広報は下記を想定しています。

- マスメディアへの広報
- IRC などのくちこみ。#debian-devel@opn など
- Blog
- DWN への投稿
- メーリングリスト, debian-devel@debian.or.jp, debian-users@debian.or.jp, debian-devel@lists.debian.org
- Mixi などのソーシャルネットワーク
- Slashdot へ たれこむ

また、GPG サイン会などを実施するのなら事前に十分に準備、広報する必要があります。

#### 4.2.4 1月前

宴会場の確保、決定が必要です。

参加者の登録が確定しているくらいが本当は好ましいです。人数が足りないのであればがんばってかきあつめるなどのアクションをとります。

ロジスティックの計画があるので、この時点での人数の把握は重要。

#### 4.2.5 7日前

宴会場に連絡して、大体の人数を調整。

#### 4.2.6 2日前

宴会場との調整、当日の人数のより確度の高い情報を提供。

#### 4.2.7 当日

参加者の出欠確認

参加費用の集金を実施します。

スポンサー企業からの提供物を提供します。スポンサーのグッズとかです。

#### 4.2.8 事後

スポンサー企業への報告を作成します。結果報告書を書き上げます。

参加者の報告をまとめてもらいます。来年のイベントに繋げるために重要です。

次回への検討をはじめます。

#### 4.2.9 参考文献

いろいろと他のイベントの報告などもあります。参考になりそうなものを列挙します。

- Joey の LinuxTag レポート <http://www.infodrom.org/~joey/Vortraege/2005-06-24/index.html>
- Joey の LinuxTag 感謝状 <http://www.infodrom.org/~joey/log/?200512020951>
- Debconf5 Final Report <http://lists.debian.org/debian-devel-announce/2005/12/msg00001.html>

#### 4.3 やった内容

やった内容はけっこういろいろありました。最初は一般的なうけをねらったものもありましたが、全体的には技術的な内容を主としています。

- 毎月のクイズ
- 最初の数回はグループワーク
- バックアップリストアについて
- ネットワーク監視
- reportbug の使い方
- debhelper
- Social Contract
- po-debconf
- lintian/linda
- dpkg-cross
- dsys/update-alternatives
- debian-installer
- dpatch
- toolchain
- ITP からアップロードまでの流れ
- debconf 2005 参加報告
- Debian JP web の改革
- debconf の使い方
- apt-listbugs
- debbugs
- dpkg-statoverride
- Debian Weekly News 日本語翻訳のフロー

来た人数は表 2 にあるような数字です。正確な記録は実は残っていないような気がしています。議事録をあさればわかるのかもしれませんが。

#### 4.4 おきたトラブル

勉強会を毎月開催する上で発生したトラブルを紹介します。表 3 です。数字はどれくらいの確率でおきたような気がしているかというのをなんとなく気分的に定量的に書いてみました。

表 2 参加人数 (概算)

	人数
2005 年 1 月	21
2005 年 2 月	10
2005 年 3 月 (早朝)	8
2005 年 4 月	6
2005 年 5 月	8
2005 年 6 月	12
2005 年 7 月	12
2005 年 8 月	7
2005 年 9 月	14
2005 年 10 月	9
2005 年 11 月	8
2005 年 12 月	8

表 3 発生トラブル

イベント	発生率
パソコンが盗まれる	10%
家が水没する	10%
病気で倒れる	20%
✓切におくれる	20%
なぜか講師のひとと前日まで音信不通	10%
20 分くらいまえに連絡してきて、来れないという参加予定者がいる。	100%
何も連絡なく来ない人がいる	100%
なぜか赤字	40%

#### 4.5 できた内容

事前課題により事前に awareness を向上しました。いろいろと知らないことを積極的に調べることで講師がその分野に詳しくなるという副作用があります。調査して文章を書いている過程でバグが気に入らないので、バグが直る、ということを若干期待しています。

勉強会をクイズではじめてみんなで発言することにより場を和ませることができたか?と思っています。クイズは、全員に紙で配布して解いてもらわないと、順番にあてる形でやると、一部の回答している人だけが集中して、その他の人が当事者意識をもたないという問題があります (JDMC での失敗)。紙を毎回印刷するコストは大きいですが、それなりに効果もあります。

終わってからの blog へのリンク、議事録の掲載についてはあまり反響が無いです。事前資料の PDF についてはいろいろと blog とかをみているとコメントがあったこともありますが、そちらも反応はあまりないようです。見られているのかどうか不明です。PDF ファイルだからでしょうか?

勉強会の資料を半年分まとめて書籍のような形式にして、Debian 勉強会資料ということで、コミックマーケットにて販売してもらおう、という試みをしています。これは、以前 Debian 関係の話題が豊富にはいっていた「Debian BNU/Linux 不徹底入門」という同人誌があったのですが、それが廃刊になったため、その代替となれることをめざしているためです。

## 4.6 今後やりたいこと

今後は事前の打合せをもっと密にしたいと考えています。

IRC の debianjp チャンネルで偶然いたメンバーで、なんとなく打合せをする、ということではできていました。しかし、最初のころは事実上打合せは上川が電話で呼び出してどっかの飲み屋でする、という手法をとっていました。後半は時間の都合で、ほとんど打合せができていなくて、前回の勉強会の後の飲み会で決定した内容そのままでの勉強会にのりこむ感じでした。

事後の処理をなんとかしたい、と考えています。開催した結果をもっと参加していない人にもわかるように効率よくアウトプットできないだろうか、と思っています。

他の人が参加したいと思えるようなアウトプットが出せないだろうか、と考えています。勉強会自体に Debian 関係者が参加したい、と思えるようになることと、Debian にこれから入る人達が参加したい、と思えるようになることが必要だと思います。

来年の提案としてシステムの構築報告、動作検証、というのはどうだろうか。「この組合せはできるだろう」、という組合せに関して、関係はこうやってできる、ということを経験していけば、多くの人とその動作を確認できるようになり、問題も解決していけるでしょう。Debian ユーザの勉強会というのはそういう形になるのではないのでしょうか。

Debian 勉強会以外では、おそらく開発に必要な情報についてまとめて情報収集できる場というのが存在しないため、開発に必要な情報については継続してやりたいと考えています。ただ、2 回に一回くらいはそういうユーザよりの情報の検証にあててもよいだろうと考えています。

また、勉強会でいっぱなしではなく、勉強会の結果何かが起きる、というようにしたい。メンテナがバグトラッキングシステムにバグをファイルします、というように宣言して、毎月その進捗を報告する、という内容にしてみてもよいかな、と思っています。

## 5 Debian 勉強会の事前資料の作成はどうやってやったか

上川



### 5.1 作成ツール

作成のデータ共有には alioth の cvs を利用しました。

データの編集は上川は emacs+yatex+whizzytex で実施しました。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 処理系として platex を利用しました。PDF の作成は、dvipdfmx を利用しました。

プレビューは dvi ファイルは advi、PDF ファイルに関しては、xpdf を利用しました。

上川の編集環境は Debian sid で、常に開発中の環境だったので、その時期において動かないツールというものもたまにあり、それなりに大変でした。原稿の編集中には apt-get dist-upgrade しないように自制していました。

### 5.2 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ソース

事前資料は L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で作成しました。作業は大きく 3 種類ありました。

- クイズの作成
- 参加事前課題の作成
- 勉強会のネタの作成

#### 5.2.1 クイズ

クイズについては、L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のマクロでクイズを作成できるようにして、それを利用して本文を作成しました。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のソースに下記のように記述すると、

```
\santaku{問題文}{回答 A}{回答 B}{回答 C}{回答}
```

下記のような出力ができるようになりました。

問題 24. 問題文

- A 回答 A
- B 回答 B
- C 回答 C

また、その出力を latex-beamer<sup>\*3</sup>で処理をして、プレゼンテーション形式になるようにしました。2005 年 10 月以降、勉強会当日は、それを利用して回答を提示するようにしました。

#### 5.2.2 参加事前課題

メールにて参加者から plain text できたものを気合いで L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X になおしました。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で使えない文字というがあるので、それをエスケープすることと、構造文書については、構造を L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 用に書き直すという手順が必要です。

例えば、下記のような文章は

---

<sup>\*3</sup> L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X でプレゼンテーションを作成するためのスタイル



```

これについて
こんなことをしてみた
あれについて
あんなことをしてみた
それについて
いっぱいしてみた

```

itemize 環境を利用して下記のような文書になります。

```

\begin{itemize}
\item{これについて} こんなことをしてみた
\item{あれについて} あんなことをしてみた
\item{それについて} いっぱいしてみた
\end{itemize}

```

- これについて こんなことをしてみた
- あれについて あんなことをしてみた
- それについて いっぱいしてみた

### 5.2.3 勉強会のネタ

講師の方に直接 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X で文書を書いてもらいました。CVS レポジトリは [alioth.debian.org](http://alioth.debian.org) でホスティングしてもらったので、そこに共同開発者という形で参加してもらいました。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のスタイルはほぼそのまま jsarticle を採用しています。ただ、セクションのはじめの部分だけはみかけを派手にしようとして dancersection というマクロを作って独自に定義しています。各筆者は dancersection 以下に適当に subsection を作って文書を作成する、というルールになっています。

```

\dancersection{一年間 Debian 勉強会をやってみて}{上川}
\label{sec:uekawa}
%% 上川の記事はここから
\subsection{セクションの名前 }
文章がだらだらと続く
\subsubsection{セクションの名前 }
.
.
.
\subsection{セクションの名前 }
.
.
.

```

### 5.2.4 URL やメールアドレスの処理

`\url{http://url...}` というように表記しています。また、メールアドレスも環境を定義するのが面倒なので、そのまま `\url{メール@アドレス}` という形式にしています。

### 5.2.5 特殊文字の処理

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X でエスケープが必要な文字については表 4 のように対処しています。

表 4 特殊文字

文字	名称	表記
~	チルダ	<code>\~{ }</code>
_	アンダーライン	<code>\underline{ }</code>
#	ハッシュ	<code>\#</code>
%	パーセント	<code>\%</code>

## 6 次回



---

未定です。内容は本日決定予定です。  
参加者募集はまた後程。



**Debian 勉強会資料**

2005年12月10日 初版第1刷発行  
東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）

---